

第11章 人づくり・環境学習等

第1節 人づくりの推進

1 ESD ユネスコ世界会議の成果の継承【環境政策課、環境活動推進課、生涯学習課】

県は、2014年11月に開催された「持続可能な開発のための教育（ESD）に関するユネスコ世界会議」を通じて、環境面における「人づくり」を多様な主体と連携・協働して地域全体で取り組んでいくことが重要であることを改めて認識し、「人づくり」の推進に向けて取り組んでいます。

特に、ESD ユネスコ世界会議の「あいち・なごや宣言」では、①ユースをキーとなるステークホルダーに巻き込み尊重すること、②ユースの課題解決能力等の能力育成を強化することが重要とされたことから、県では、2015年度以降、次世代の地域の担い手となる大学生や高校生を対象にした「人づくり」プログラムを順次展開し、ESD ユネスコ世界会議の成果を踏まえた取組を推進しています。

なお、学校現場でのESDの推進拠点として位置付けられている「ユネスコスクール」は、本県では160校（2022年4月時点）が加盟校（申請校・キャンディデート校を含む）です。

2 持続可能な未来のあいちの担い手育成【環境政策課】

（1）かがやけ☆あいちサスティナ研究所

県は、近い将来、地域の担い手となる大学生

が、グローバルな視点を持って、継続的に環境配慮行動を実施していくプログラムとして「かがやけ☆あいちサスティナ研究所」を2015年8月に立ち上げました。本研究所は、大村知事を所長とし、パートナー企業から提示された環境課題に対し、研究員である大学生が現場での調査や企業担当者とのディスカッションを通して、解決策を企業側に提案し、その成果を広くPRしていくものです。

2021年度は39名の大学生を研究員として採用しました。また、パートナー企業8社から各企業が直面する問題などの環境課題が、研究員へ与えられました（表11-1-1）。

（2）研究員の活動

研究員は8月8日の開所式を皮切りに、チームごとに活動をスタートし、基礎講座（1日）、企業環境活動研究（4日）、中間発表会（1日）、研究成果発表会（1日）、出張成果発表会（3日）などの活動を実施しました。特に企業環境活動研究では、研究員は自主研究してきた内容と実際の現場との比較や、企業の担当者から生の声を直接聞くなど、非常に貴重な経験を得ていました。

表 11-1-1 2021年度パートナー企業からの環境課題（左側は個人参加部門、右側は団体参加部門）

パートナー企業	環境課題	パートナー企業	環境課題
(株)コマダ	お客様がコマダでくつろぎながら、環境や社会に貢献できる商品やサービスを提案せよ	(株)サーラコーポレーション	持続可能な社会に貢献する新たな暮らしのサービスを検討せよ
豊島(株)	アパレル業界から食品ロス問題の解決に立ち向かうブランド「FOOD TEXTILE」の効果的なPR方法を検討せよ	中京テレビ放送(株)	SDGsをテーマに、視聴者に訴えかけるネットと連動したテレビ番組を企画せよ
日本ガイシ(株)	日本ガイシと持続可能な未来を考える、グローバルな環境教育プログラムを検討せよ	中部テレコミュニケーション(株)	高速回線を活用した、親子で学べるサスティナブルなコンテンツを検討せよ
ホーユー(株)	人も環境も美しく。サスティナブルな未来に向けてヘアカラーが貢献できる企画・サービスを検討せよ	吉本興業(株)	2030年を笑顔であふれる世界に！笑って学べる、SDGs体験型プログラムを検討せよ

(3) 研究成果発表

研究員が開所式以来、4か月間をかけて、まとめた研究成果を発表する「かがやけ☆あいちサスティナ研究所 成果発表会 2021」を12月12日に開催しました。

研究員は、約150名の来場者の前で、チームごとに研究成果を発表しました。どのチームの提案も、大学生ならではのアイデアあふれるものであり、パートナー企業からは研究員の成果発表会までの努力を労うとともに、成果に対する講評をいただきました。

発表後には、修了式を実施し、研究員代表者が大村知事から修了証を受け取り、今後の環境リーダー



修了証授与の様子

として活躍する意気込みを述べました。大村知事は、研究員に対して、「持続可能な未来のあいちの担い手としての活躍を期待する」とエールを送りました。

また当日は、審査員審査による最優秀賞などの4賞と、参加者投票によるオーディエンス賞を選定し、表彰しました。

選定結果

賞	個人参加部門	団体参加部門
最優秀賞	チーム・豊島	チーム・中京テレビ
優秀賞	チーム・日本ガイシ	チーム・SALA
グッドアイデア賞	チーム・コメダ	チーム・コムファ光
SDGs 賞	チーム・ホーユー	チーム・よしもと東海
オーディエンス賞	チーム・豊島	

最優秀賞には、「人から人へ未来につなげるオーダーメイドギフト」を提案したチーム・豊島と、「学校生活をアニメ化し、すべての人にSDGsを」を提案したチーム・中京テレビが輝きました。



最優秀賞受賞チームの皆さん

3 中高年・シニア世代の環境学習推進【環境活動推進課、環境調査センター】

県では、2018年度に養成した中高年・シニア世代の環境学習講師「あいち eco ティーチャー」を小学校や環境学習施設等に派遣し、ごみや水に関する環境学習講座を実施しています（表11-1-2）。2021年度は講座を42回実施し、受講後には、「ごみに対する意識が高まった。苦手な食材を頑張って食べるようになり、受講日の給食の残菜がゼロになった。」等、子どもの行動に変化が見られたとの声を多くいただきました。

また、「あいち eco ティーチャー」は、県の環境学習施設である「あいち環境学習プラザ」で実施している環境講座でも講師を務める等、幅広く活躍しています。



講座の様子

表 11-1-2 環境学習講座

テーマ	講座名
ごみ	どこへいく？ プラスチックごみの真実！
	食べ物とごみのさかい目はどこ？ ～ごみをなくそう大作戦！～
水	地球上の少ない水でキミは何する？
	節水大作戦～ムダな水を探そう～
	水の惑星地球を救え！ ぐるぐるトルネード実験

4 高校生の環境学習推進【環境活動推進課】

2017年度から開始した「あいちの未来クリエイト部」は、県内の高校生のグループが専門家等の支援を受けながら、地域の環境に関する調査・研究を行い、その成果を基に環境学習教材を作成し、地域住民をはじめ広く県民に発信する活動です。

2021年度は、県立内海高等学校ボランティア同好会、県立津島高等学校自然科学部、県立南陽高等学校総合探究系列&Nanyo Company部の3グループが参加しました（表 11-1-3）。

（1）調査・研究活動

参加グループがそれぞれテーマを設定し、専門家から基礎講座や調査の方法の指導を受けながら、調査を実施しました。また、11月7日に開催した調査・研究発表会で成果発表を行いました。



海岸でのごみ調査（県立内海高校）

（2）環境学習教材の作成・活用

調査・研究の成果を基に、ボードゲームやカードゲームの教材を作成し、同級生や教員の家族等に体験してもらいました。



校内での教材体験会（県立津島高校）

表 11-1-3 2021年度あいちの未来クリエイト部参加グループの調査・研究内容及び作成した教材

参加グループ名	調査・研究内容	作成した教材
県立内海高等学校 ボランティア同好会	地元の海のごみの種類や量、海岸による違い、ごみを出さないためにできること、及びごみが生物に与える影響について	わくわく海ごみ探偵隊（ボードゲーム） …海ごみの現状や、ごみを増やす行動・減らす行動について学べるすごろく
県立津島高等学校 自然科学部	絶滅危惧種であるミナミメダカと外来種であるカダヤシの分布及び生息割合について	メダカダ学校（カードゲーム） …神経衰弱とクイズの2通りの遊び方でメダカとカダヤシについての知識を学べるカードゲーム
県立南陽高等学校 総合探究系列&Nanyo Company部	フェアトレードやエシカル消費の認知度について	エシカルリレーすごろく（ボードゲーム） …家や職場でできるエシカル消費を学べるすごろく めざせ！フェアトレード王すごろく（ボードゲーム） …ゲームを通して、フェアトレードの概要や環境問題について学べるすごろく

5 未就学児を対象とした自然体感プログラムの推進【環境活動推進課】

県では、「**もりの学舎**」において、人と自然をつなぐ役割を果たす森の案内人「インタープリター」により、幼いうちから自然に触れ、学び、気づきを得る機会を提供する事業を実施しています。

(1) もりの学舎ようちえん

未就学児とその保護者を対象に、もりの学舎やその周辺で、四季を通して自然体感プログラムを実施しています。

2021年度は30組の親子が6回のプログラムに参加し、インタープリターとともに森の探検や、森の木を使ったスプーン作りなどを行い、楽しみながら自然とふれあいました。参加した保護者からは「インタープリターが優しく魅力的で毎回とても楽しかった」との声をいただきました。回を重ねるごとに、子どもたちが五感を使って自然を楽しめるようになり、自然に対する感性が育まれている様子が伺えました。



自然観察の様子

(2) 一日もりの学舎ようちえん

県内の幼稚園・保育園等を対象に、もりの学舎やその周辺で1日（又は半日）で行う自然体感プログラムを実施しています。

2021年度は9園が参加し、参加した園からは「散歩で出かけた神社や公園で植物や小動物に目が向くようになった」との声をいただきました。



自然体感プログラム
「森の中をおさんぽ」

(3) 森の伝道師派遣

インタープリターを県内の幼稚園・保育園等に派遣し、園庭等の身近な環境を使った自然体感プログラムを実施しています。



自然体感プログラム
「おかおみつけ」

2021年度は11園で実施し、参加した園からは「自然の中にある色や手触りの気づきや自然物を使っての遊び方などをたくさん教えてもらうことができた」という声をいただきました。

(4) 子ども自然体感活動指導者養成研修

幼稚園教諭、保育士やその職を志す学生等を対象に、園児に自然体感プログラムを実施するノウハウを身に付ける研修を実施しています。

2021年度はくさばなコースといきものコースで研修を実施し、両コースで20人ずつが参加しました。

また、環境学習施設職員を対象とした研修をとだがわこどもランドと愛知県青年の家で実施しました。

参加者は自然体感プログラムを体験することで感性を広げるとともに、未就学児に対してプログラムを実施するスキルを学びました。参加者からは「自ら生き物に触れることで、子どもと一緒に虫探し等を楽しめるようになった」「研修で学んだ草花を使った遊び方を園でも行ってみたい」などの声をいただきました。



草笛を練習している様子

6 エコアクションの推進

(1) あいちエコアクションの推進【環境活動推進課】

県では、県民の環境に対する意識を地域全体の行動へと広げていくため、地球にやさしい身近な環境配慮行動を実践へとつなげる「あいちエコアクション」を推進しています。

この「あいちエコアクション」の輪を大きく広げていくために、県民参加型の啓発イベントを開催するとともに、県内の環境学習施設と連携した取組を実施しています。

ア 啓発イベントの開催

エコアクションを楽しみながら学ぶことができる県民参加型の啓発イベントとして、2014年度から「Let's エコアクション in AICHI」を開催しています。

ステージイベントや環境を題材としたワークショップなどにより、子どもから大人までの幅広い層にエコアクションへの理解を深めていただくような取組を進めています。2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止することになりました。

イ ^{あえる}AELネット環境学習スタンプラリーの実施

県内の環境学習施設や市町村などのネットワークである愛知県環境学習施設等連絡協議会（AEL ネット）を活用して、県民の皆様に気軽に楽しく「エコアクション」へと踏み出す機会を県内各地で提供しています。

AEL ネットは「Aichi Environmental Learning Network」の頭文字をとったもので、2022年3月末現在で184施設等37市町が加盟しており、これらの施設等では、環境全般、エネルギー、自然、ごみを減らす3R、水環境などについて学習することができます。

2021年度はAEL ネット加盟施設のうち175施設等が連携して環境学習スタンプラリーを実施し、26,815人が参加しました。

（2）自発的な環境配慮活動の促進

ア 食を通じた環境配慮活動の促進【食育消費流通課】

県は、「あいち食育いきいきプラン 2025」（第4次愛知県食育推進計画（2021年3月作成））において、「食を通じて環境に優しい暮らしを築くこと」を食育推進の柱の一つとして設定しています。この中で、「食べ物を残さず食べるようにするなど、学んだ知識をもとに自ら行動する」、「食べ残しや食品の廃棄を減らす」などの県民の主体的な取組を促すとともに、実践促進に向けた県や関係団体等による10の取組項目を掲げています。

これまでに、県、関係団体、市町村等が様々な取組を実施していますが、「むだや廃棄の少ない食事づくりを積極的に行っている」県民の割合は、2021年度では47.6%で、2020年度（45.8%）から改善しました（目標は2025年度50%以上）。

また、食育関係者の取組をまとめた「あいち食育いきいきレポート」を県が毎年作成し、広く関係者に紹介しています。2021年度に報告があったもののうち、環境配慮活動に関しての主な取組事例は以下のとおりです。

【環境配慮活動の具体的取組】

○食生活における環境への配慮の徹底

食品ロス削減イベントの開催、食品ロス削減環境学習プログラムの作成、児童への啓発など

○農林水産業への理解と地産地消の推進

あいちの農業用水展、SNSを利用した食育啓発事業など

○農林水産業や食品関連産業における環境への配慮の徹底

児童養護施設や子ども食堂等への提供を目的とした農園事業、収穫体験など

「食を通じて環境に優しい暮らしを築く取組」の目標達成に向け、今後も引き続き活動を促進していきます。

イ グリーン購入の促進【環境活動推進課】

グリーン購入とは、製品やサービスを購入する際に、必要性をよく考え、環境への負荷ができるだけ少ないものを選んで購入することです。

グリーン購入は、消費生活など購入者自身の活動を環境にやさしいものにするだけでなく、供給側の企業に環境負荷の少ない製品の開発を促すことで、経済活動全体を変えていく可能性を持っています。

県は、岐阜県、三重県、名古屋市、環境ラベルの管理運営団体、グリーン購入の普及推進団体、スーパーマーケットやドラッグストアなどの販売店、メーカーなどと協働して、2002年度から毎年度「東海三県一市グリーン購入キャンペーン」を実施し、グリーン購入の普及に努めています。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大により、中止することになりました。

ウ 地域環境保全委員の設置【環境活動推進課】

県は、地域における環境の状況を把握し、その保全に関する活動を推進するため、**愛知県環境基本条例**第19条の規定に基づき、地域環境保全委員会を設置しています。

委員は、地域における環境保全に関心及び知識を有し、かつ、環境保全に関する活動に熱意を有する人の中から、市町村長の推薦を受けて知事が委嘱しており（定員200人）、それぞれが

担当市町村において以下のような活動を行いました。

- 地域の環境の状況調査・報告
- 県が行う環境保全施策への協力・環境保全に関する啓発、指導等
- 地域における環境保全のための自主的な活動への参画、指導等
- 県が主催する地域環境保全連絡会議等への出席

第2節 環境学習等の推進

1 環境学習の推進【環境活動推進課、環境調査センター】

環境問題は、私たちの暮らしや経済・社会と密接に関わっており、環境問題を解決するためには、問題の本質や取組の方法を自ら考え、解決する能力を身に付け、何よりも行動に結びつけていく環境学習が不可欠です。

このため、県は、2005年1月に「**愛知県環境学習基本方針**」を策定し、「**あいち環境学習プラザ**」及び「**もりの学舎**」を拠点にして、環境学習講座などを実施してきました。

2012年10月に**環境教育等による環境保全の取組の促進に関する法律**が施行されたことに伴い、県では2013年2月に「**愛知県環境学習等行動計画**」を策定しました。その後、2018年3月にこれを見直し、持続可能な社会を支える「行動する人づくり」を目的とした「**愛知県環境学習等行動計画2030**」（以下本節において「**行動計画2030**」という。）を策定し、環境学習の一層の推進に取り組んでいます。

（1）愛知県環境教育等推進協議会の開催

県では行動計画2030の推進のため、学校教育及び社会教育の関係者、県民、事業者、NPO、学識経験者、行政等で構成する**愛知県環境教育等推進協議会**を設置しています。

2021年度は協議会を2回開催し、行動計画2030の推進に関する意見交換等を行いました。

（2）環境学習の拠点施設での取組

ア あいち環境学習プラザ

2020年4月に環境調査センター1階に移転した「あいち環境学習プラザ」では、体験型学習や実際の環境分析現場の見学等、施設の特徴を生かして楽しく環境について学ぶことができます。また、小学校の授業としても活用できるよう、2020年度から本格実施された学習指導要領に対応した環境学習講座を実施しています。



あいち環境学習プラザ

イ もりの学舎

自然体験型の環境学習施設「もりの学舎」では、愛知万博で実施されたプログラムを継承・発展し、土・日・祝日等を中心に様々な環境学習プログラムを実施しています。

また、2011年度からは企業等と連携・協働した学習プログラムも実施しており、開館（2007年3月）以来の入館者数は643,924人、プログラム参加者数は266,292人（2022年3月末時点）となっています。

もりの学舎連携企業等一覧
（2021年度、五十音順）
（一社）愛知県環境測定分析協会
（一社）愛知県産業資源循環協会
（公財）愛知臨海環境整備センター
（株）環境科学研究所
積水ハウス（株）
（一財）東海技術センター
東邦ガス（株）
名古屋キワニスクラブ
（株）みらいホールディングス

もりの学舎は、愛・地球博記念公園（長久手市）内にある愛知県の環境学習施設です。施設の周辺では、フモトミズナラなどの落葉樹、ソヨゴなどの常緑樹が見られ、また、季節によって紅紫色の花を咲かせるツツジ、薄紫色の花を咲かせるスマシレなどの植物や、カワセミなどの野鳥、カブトムシなどの昆虫といった、様々な生きものが見られます。



ぐりっちょ

もりの学舎では、これらの自然環境を題材にして、森の案内人であるインタープリターが「あそび 学ぶ ふれあい 気づく」をテーマとした「自然体感プログラム」を実施しています。愛・地球博記念公園を訪れた際は、是非お立ち寄りください。詳細は以下を御覧ください。

もりの学舎 Web サイト (<https://kankyo-gakushu-plaza.pref.aichi.jp/manabiya/>)

【主な自然体感プログラムの紹介】

土日・祝日には、周囲の自然環境を生かしたツアーや自然あそび、自然物やリサイクルをテーマにした工作などを実施しています。また、学校や幼稚園などの団体利用についても受け付けています。

ア インタープリターと歩くもりのツアー

インタープリターとともに森に入り、五感と想像力を使ったあそびを通じて自然とふれあう、もりの学舎メインプログラムです。感性を大事にするあそびを通して楽しく森の自然を学びます。



インタープリターと歩くもりのツアー

イ インタープリターともり遊びにいこう

3歳以上を対象として、インタープリターと一緒に、森の中で身近な自然とふれあうあそびを体験します。

ウ あそび工房（工作教室）

木の実や小枝などの自然素材を使った工作教室です。「森のフォトフレーム」では、ダンボールで作った枠に、自然素材を思い思いに貼り付け、オリジナルのフォトフレームを作ります。

エ ひろば de しぜんあそび

幼児から大人の方までどなたでも参加できるプログラムです。所要時間は15分ほどで、自然を手軽に楽しめます。

【2021年度「もりの学舎」事業実施状況】

○プログラム参加者数： 9,440人

内 容	参加者数
インタープリターと歩くもりのツアー(毎週土・日・祝日) インタープリターともり遊びにいこう(毎週土・日・祝日) など	4,037人
あそび工房 インタープリターによる自然素材やリサイクル素材などを使った工作教室（GWや夏休みなどの特定日、1日2回又は3回）	2,291人
その他の事業 ひろば de しぜんあそび、もりの学舎キッズクラブ、おさんぽ de いきものみつけ、夏・冬おやこクラフト、ちびっこクラフトなど（随時開催）	3,112人

○来館者数： 26,222人



ちびっこクラフト



キッズクラブ

(3) 環境学習コーディネーターの活用

環境学習は、具体的な行動に結びつけていくことが重要であり、そのためには、地域を教材とした自然体験や社会体験などを通して実感を持って学ぶことが非常に有効です。また、このような体験型の環境学習を地域や学校等で推進するためには、地域、学校、NPO、事業者、行政等が連携・協働し、各主体のノウハウを生かしあうことが重要です。

このため、県では2013年度から「環境学習コーディネーター」を「あいち環境学習プラザ」に配置し、講師・活動場所の紹介といった相談業務や、講師と相談者との講義の日程や学習内容の調整などを行うコーディネート業務を実施しています。

2021年度の依頼件数は、相談業務が11件、コーディネート業務が7件でした。

(4) 愛知県環境学習施設等連絡協議会の運営

県は、愛知県環境学習施設等連絡協議会（AELネット）を設置し、県内の環境学習施設や市町村等が保有する環境学習プログラムや指導のノウハウ等の情報を共有し、各施設間のネットワークづくりを進めています。

2021年度は、協議会を2回開催し、あいち環境学習プラザの見学やAELネットへの新規加盟施設の事例紹介等を行いました。

(5) こどもエコクラブ活動への支援

環境省の呼びかけにより始まった「こどもエコクラブ」は、子どもたちが地域の中で楽しみながら自主的に環境活動・学習を行うクラブで、県内では、2021年度末で48クラブ2,401人がリサイクル・美化活動・自然観察会などの活動を行っています。

県は、地方事務局としてこどもエコクラブの活動を支援しました。

2 学校における環境教育の推進【環境活動推進課、義務教育課、高等学校教育課】

学校教育における環境教育は、社会科（高等学校においては、地理歴史科及び公民科）、理科、生活科、家庭科（中学校においては技術・家庭科）、保健体育科等の関係教科、道徳科及び総合的な学習（探究）の時間、特別活動、自然科学部等の探究活動等、それぞれの目的に即して取り上げられています。

2021年度は、学校における環境教育の推進を図るため、次の事業等を実施しました（表11-2-1）。

表 11-2-1 学校における環境教育推進事業例（2021年度）

事業	内容
環境学習副読本の作成・配付	県内の小学校の4年生に対し、環境学習副読本「わたしたちと環境」を作成・配付（名古屋市立は各校1冊配付）
心の教育推進活動の実施	県内の小・中学校において、家庭・地域との連携を基盤に、環境保護、自然との触れ合い、奉仕、福祉等の体験を重視した教育活動を実施

（資料）環境局・教育委員会調べ



2021年度版環境学習副読本

3 環境月間行事の実施【環境活動推進課】

1972年6月5日から2週間、スウェーデンのストックホルムで国連人間環境会議が開催されたことから、国連は6月5日を「世界環境デー」と定め、日本でも環境基本法により「環境の日」と定めています。

また、環境省の主唱により、1991年度から、

毎年6月の1か月間を「環境月間」（1973年度から1990年度までは6月5日を初日とする週間を「環境週間」としていました。）とし、環境問題の重要性を認識するとともに将来に向かってよりよい環境を創出するための努力と決意を新たにする機会として、各種の記念行事が実施されています。

県では、県民の環境保全意識の高揚を図り、快適な生活環境の保全に資することを目的として、県内の環境の保全に関し顕著な功績のあつ

た団体・個人に対して、知事による表彰を行っています。2021年度は、3団体及び21名を表彰しました。

第3節 SDGs達成に向けた「人づくり」の推進

1 愛知県 SDGs 未来都市計画の推進【企画課】

持続可能な開発目標（SDGs）は、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された2030年までの国際目標で、17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の誰一人として取り残さないことを誓っています。

県は、2019年7月に内閣府から「SDGs 未来都市」に選定され、知事を本部長とした「愛知県 SDGs 推進本部」を設置するとともに、SDGsの達成期限である2030年の愛知県のあるべき姿や、SDGsの達成に向けて今後3年間に先導的に進める取組を記載した「愛知県 SDGs 未来都市計画」（計画期間：2019～2021年度）を策定しました。2022年3月には「愛知県 SDGs 未来都市計画（第2期）」（計画期間：2022～2024年度）を策定し、全庁を挙げて取組を推進しています。

【「愛知県 SDGs 未来都市計画」（第2期）における2030年の愛知県のあるべき姿】

「イノベーションを創出する愛知」（経済）、「すべての人が生涯輝き、活躍できる愛知」（社会）、「環境分野で日本をリードする『環境首都あいち』（環境）の3側面の調和を図り、愛知が一丸となって「暮らし・経済・環境が調和した輝くあいち」の実現を目指します。

2 SDGs 達成に向けた「人づくり」の取組等【企画課】

SDGsの達成に向けては、企業・大学・NPOなど多様なステークホルダーが、環境、社会、経済分野の様々な問題を統合的に解決できる人材「SDGsの担い手」となり、主体的に行動していくことが必要であるため、県は、「SDGsの担い手」を育成する取組を推進しています。

2021年度は、大学生のSDGsに対する理解を深

め、次代の「人づくり」につなげることを目的として、学生が企業に対して取材を行い、原稿を執筆する「企業等取組事例集」を作成したほか、高校・中学校教員向けのSDGsワークショップを開催しました。また、企業等のSDGs達成に向けた取組を促進するため、企業向け個別セミナーやSDGs登録企業等交流会を開催しました。

3 SDGs AICHI EXPOの開催【環境政策課】

SDGsに取り組む企業・大学・NPO等の各主体間のコミュニケーションの促進やパートナーシップの構築、SDGsの県内全域への普及・浸透を目的に、日本最大級のSDGs推進フェア「SDGs AICHI EXPO」（主催：SDGs AICHI EXPO 実行委員会（会長 大村知事））を2020年度から開催しています。

第2回目となる「SDGs AICHI EXPO 2021」は、2021年10月22日（金）・23日（土）にAichi Sky Expo（愛知県国際展示場）で開催し、11,613の方が参加しました。

10月22日（金）には、茂木健一郎氏による講演、国際連合地域開発センター（UNCRD）によるシンポジウム等のSDGsの最新事情を学べるイベントを、10月23日（土）には、フェアトレード名古屋ネットワークによるエシカルファッションショー&トークショーやユース世代のパネリストによるユースセッション等を実施しました。

また、開催期間中を通して、SDGsに率先して取り組む約100の企業・団体がブース出展し、取組内容や成果の発信を行いました。



ステージイベント



ブース出展

SDGs に取り組む企業・大学・NPO 等の各主体間のコミュニケーションの促進やパートナーシップの構築、SDGs の県内全域への普及・浸透を目的に、日本最大級の SDGs 推進フェア「SDGs AICHI EXPO」(主催：SDGs AICHI EXPO 実行委員会(会長 大村知事))を 2020 年度から開催しています。

第 3 回目となる「SDGs AICHI EXPO 2022」は、リアルとオンラインによるハイブリッド方式で開催し、16,511 名の方が参加しました。

■開催テーマ：「あいち発 未来共創パートナーシップ」

～カーボンニュートラル・ローカル SDGs の実現に向けて～

■期 間：2022 年 10 月 6 日(木)～8 日(土)

■会 場：Aichi Sky Expo(愛知県国際展示場)(常滑市)

■内 容：ステージイベント、ブース出展、ワークショップ等

【ステージイベント】

10 月 6 日(木)・7 日(金)は、SDGs 経営セミナーや、日本経済新聞社・日経 BP との共催事業である「日経 SDGs フェス in どまんなか」を開催し、ビジネス層に向け SDGs 最新情報を発信しました。

10 月 8 日(土)は、エシカル・ファッションショーや、吉本芸人によるお笑いステージ、ユース世代のパネリストによるユースセッションなどを行い、ファミリーや若者を中心に、様々な世代・角度からの SDGs の取組を紹介しました。

【ブース出展】

SDGs に率先して取り組む約 120 の企業・団体がブース出展し、工夫を凝らした展示や、取組・成果の発信を行いました。

また、来場者による投票で優秀出展者を選ぶ『ブース投票』では、ワタミ(株)、ライオン(株)、住友商事グループ、(株)セブンイレブン・ジャパン、ダイドードリンコ(株)が選ばれ、クロージングセレモニーで表彰されました。

【ワークショップ】

愛知県ブースなどで実施されたワークショップには多くの親子連れが訪れ、LED ランプの製作を通して地球温暖化について考える工作体験などに目を輝かせながら取り組み、楽しみながら SDGs について学んでいました。

【その他の企画】

「燃料電池車両の展示・試乗会」や「ユネスコスクール交流会」などの事業を同時開催しました。さらに、名古屋グランパスの協力の下、フードドライブも実施し、多くの食品を提供していただきました。

イベントの詳細は公式 web サイト (<https://sdgs-aichi.com/>) を御覧ください。



イベント
ロゴマーク



会場全体の様子



ステージイベント



ブース出展



ワークショップの様子

県では、企業等による環境面の取組が県内で拡大、向上、活性化することを目指したWebサイト「あいちSDGs環境プラットフォーム」を2022年9月28日に開設しました。



トップページ イメージ

このプラットフォームは、企業、大学、NPO等が県内で実施するSDGs達成に向けた環境面の取組を写真や動画を用いて、対外的に広くPRできます。また、事業パートナーを探しているといったマッチング希望情報をプラットフォーム内の登録団体に向けて発信し、興味を持った団体と連絡を取り合うことができます。

登録された取組事例は、どなたでも閲覧できます。情報の検索には、団体の業種や所在地などによる団体検索と、取組が目指すSDGsゴールやフリーワードによる取組検索が可能です。

登録団体ができること	閲覧者ができること
<p>発信する 自らの取組を写真や動画を用いて対外的に広くPRできます。</p>	<p>探す 業種や企業規模、取組分野等、ユーザー目線の多様な検索機能により、環境に関する取組情報をピンポイントで取得できます。</p>
<p>つながる 団体間でマッチング希望情報の受発信ができ、新たなパートナーとの提携やコラボレーションが図れます。</p>	<p>知る 様々な団体のSDGsに関する経営方針や環境面の取組を知ることができ、自らの行動・取組の参考にすることができます。</p>
<p>ステップアップ 登録内容に応じて自らの取組レベルを把握でき、次なるステップに向けた取組のステップアップが図れます。</p>	<p>参加する 愛知県の環境に関する施策やイベント情報を知り、参加することができます。</p>

取組事例は、随時募集しています。また、これからSDGsに向けた環境活動を始めたい、就職に向けて環境対策に積極的な企業を探したいなど、様々な場面での活用を期待しています。

あいち SDGs 環境プラットフォーム (<https://aichi-sdgs-epf.jp>)



第4節 国際環境協力の推進

1 国際環境協力の推進【環境政策課】

1960年代の深刻な公害を克服してきた本県には、公害防止対策に関する知識、経験等の大きな蓄積があります。アジア諸国を中心に公害に悩む開発途上国は多く、それらの国々に対し、県は

(独)国際協力機構(JICA)などと提携した環境協力を進めてきました。

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、開発途上国の行政職員等の受入れ実績はありませんでした。